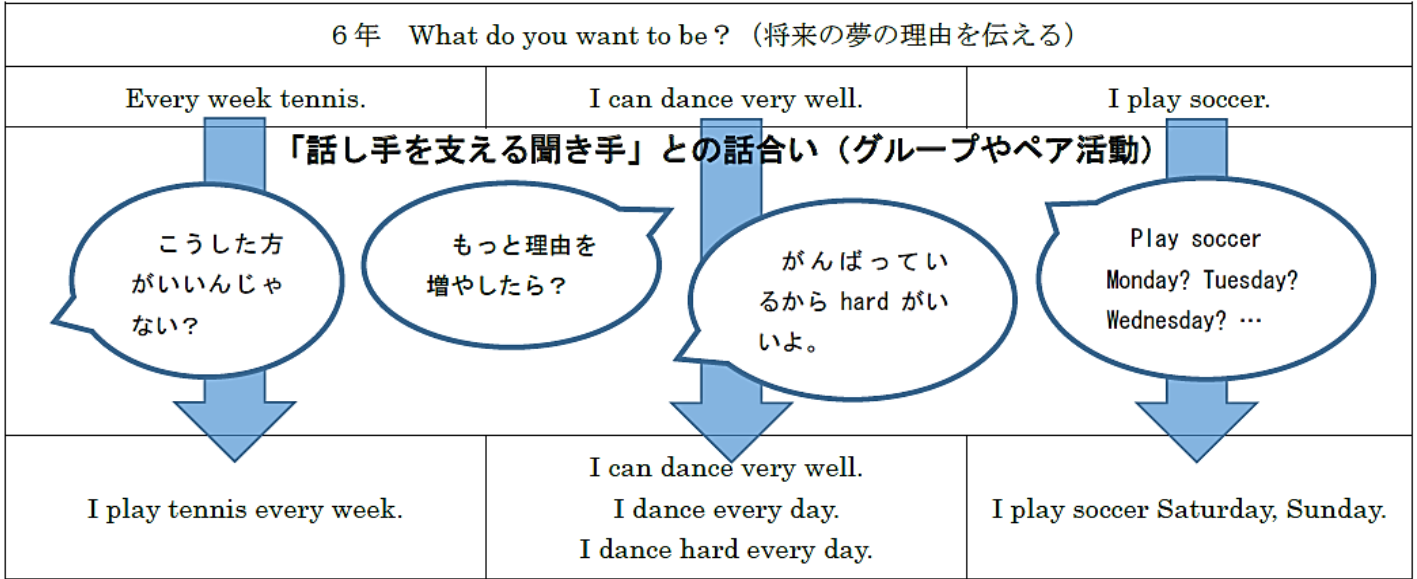


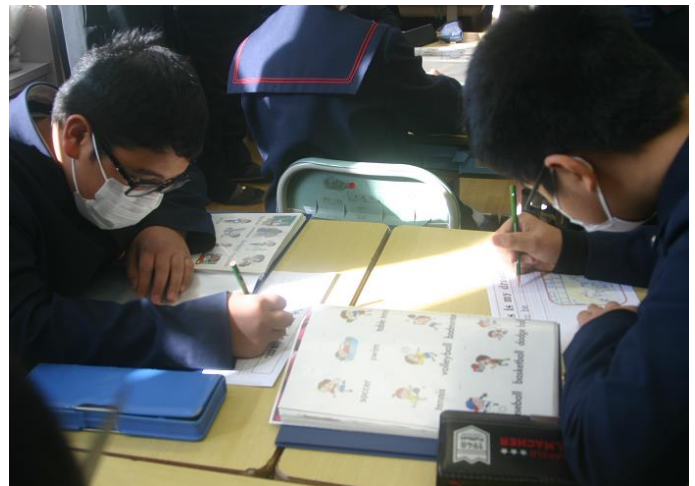
学年	教科等	単元名	日時
第5学年	外国語活動	What do you want to be?	平成30年2月2日(金) 2校時
本実践の主張	Small Talkにおいて、夢宣言と似たやり取りを子ども同士でさせる。その後、4人グループになり、友達のアドバイスをもらいながら、自分の夢宣言づくりをするようにする。友達らしさを大切にしながら友達の夢宣言づくりにかかわるからこそ、夢に込めた互いの思いを大切に、本心から相手に配慮しながら伝え合うようになり、互いの思いを共有するようになるのではないだろうか。		

子どもの姿：

- 友達から勧められることで、very well や hard の英語を使うようになった姿
- 友達から、「それだったら、every week だね。」等のアドバイスをもらって、その英語を使うようになった姿
- 「友達からのアドバイスで、思いの伝わる夢宣言ができました。」という感想をもった姿
- 友達との話し合いを2回行っても、満足のいく夢宣言をつくりあげることができなかった姿（1人）
- 夢宣言ではなく、Small Talk と同じようなやり取りになってしまっている姿（一部のペア）



「友達の夢宣言をもっと思いの伝わるものにするためには、どうすればよいか」と考え、話し合った。



書く活動を変更し、「職業名を表す語を選んで書き写す」に留めた。これだけでも7分要した。

実践をふりかえって：

外国語科の特質に応じた学びの本質を探るための授業であった。思いのこもった夢宣言にするために、もっとこんな英語が使えるのではないかと話し合った。一人一人の夢宣言の内容は高まっていた。しかし、「英語だけのやり取りをとおしてできるのではないか。」との御意見をいただいた。単元によっては可能なものもあるが、本単元においては、実際に子どもがやり取りしている言葉を英語に置き換えることが難しい。しかし、いただいた御意見を真摯に受けとめて、検討していきたい。その単元ならではの「共有させたい子どもの思い」がある。本心からの「相手や他者への配慮」ができるようになれば、この共有が可能になると感じている。これが実現する学びが、外国語科の特質に応じた学びの本質といえるのではないだろうか。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 指導計画 8時間（6時間＋短時間学習 15分×6）

【事前】総合的な学習の時間：自分自身のこれまでの歴史や将来就きたい職業について調べる。

- | | |
|---|-----|
| (1) 単元のゴールである夢宣言を知り、自分の夢宣言を実現するための課題をもつ。 | 1時間 |
| (2) 夢宣言で用いる英語に慣れ親しみながら、自分の夢宣言をつくる。
・ “What do you want to be?/I want to be～.” “I like～. I can～. I want to～.”
・ 自分の夢宣言をつくる。・・・（本時） | 5時間 |
| (3) グループの中で夢宣言をする。 | 1時間 |
| (4) 「夢宣言ポスター」を完成させる。 | 1時間 |

短時間学習を入れながら、慣れ親しませていく。

【事後】総合的な学習の時間：参観日において、自分の歴史の発表と夢宣言をする。

学校行事：卒業式前日にポスターを学級に掲示し、卒業式当日に保護者に見てもらおう。

○ 本時の目標

知っている英語を工夫して使って、思いの伝わる夢宣言をつくらうとする。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 Small Talk をする。</p> <p>○ 内容</p> <p>A : What do you want to be? B : I want to be～.I like(can)～.I want to～.等 A : (対話を続けるために、B の英語を復唱したり、“Nice.”等の英語を返したりする。)</p> <p>2 本時学習について話し合う。</p> <p>○ めあて</p> <p>知っている英語を工夫して使って、思いの伝わる夢宣言をつくらう。</p> <p>3 グループのなかで話し合ったり見せ合ったりしながら、夢宣言をつくる。</p> <p>○ もたせたい思いの例</p> <p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の夢はサッカー選手だけど、どうすれば理由や今がんばっていることが伝わるかな。 <p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんは、サッカーを毎日がんばっているから、“every day”が使えるんじゃないかなあ。 <p>○ 夢宣言の例</p> <p>I want to be a soccer player. 〈自分を指すジェスチャー〉 I like soccer. 〈サッカーの動きを表すジェスチャー〉 I <u>can</u> play soccer <u>very well</u>. I play soccer <u>every day</u>. What do you want to be? 〈みんなに問いかけるジェスチャー〉 Thank you.</p> <p>4 自分が就きたい職業名の英語をポスターに書き足して、学習のふりかえりをする。</p> <p>○ ふりかえりの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時学習でがんばったこと 	<p>○ 子ども同士で Small Talk を行うことで、次に示すものに慣れ親しむことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢宣言で用いる英語の語句や表現 対話を続けるための基本的な表現と態度 <p>○ 「思いが伝わる夢宣言」と「思いがうまく表現できていない夢宣言」を例示し、比較させることで、「思いの伝わる夢宣言にするため」という本時の目標をとらえることができるようにする。</p> <p>○ 基本表現や単語を添えた絵カードを黒板に掲示しておくことで、慣れ親しんできた英語を基に、思考・判断・表現しながら夢宣言をつくることができるようにする。</p> <p>○ 友達と一緒に考えたり、実際に夢宣言を見てもらったりすることで、より話し手の思いが伝わる夢宣言を考えられるようにする。</p> <p>○ 謙遜する気持ちをもちながらも、これまでずっとともに過ごしてきた友達からの勧めを基に、<u>very well</u>等の英語を取り入れるようにする。このかかわりが、夢宣言の本番における、「共感的な思いをもった他者とのかかわり」につながると期待している。</p> <p>○ 「話す順番はこれでよいのか」や「<u>can</u>を入れるのかどうか」等を検討させることで、思いのこもった夢宣言になるようにする。</p> <p>○ これまでの学習での気づき（表情豊かにジェスチャーを付けると、思いが伝わりやすい）を確認することで、夢宣言づくりに生かすことができるようにする。</p> <p>○ 新たなペアをつくって、夢宣言を見せ合うようにすることで、夢宣言の内容の高まりを実感できるようにする。</p> <p>○ 夢宣言ポスターを完成させるという目的をもたせて、書く活動に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>○ 英語を楽しんで使うことができなかつた子どもがいないかを把握しながら、子どもの姿を称賛することで、夢宣言への自信を高められるようにする。</p>

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

あの英語を使えば、自分の夢宣言を分かってもらえるかな。

〇〇さんだったら、あの英語を使ってこんなことを伝えるともっと思いが伝わるよ。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

